

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語 C
科目基礎情報					
科目番号	0085		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	東京外国語大学留学生日本語教育センター編「実力日本語 (上)」 (アルク) ほかに適宜プリント配布。				
担当教員	田村 修一				
到達目標					
1 日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得する。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが顕著に認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したことが認められる。		日本語の文法的知識を核として、1 聞く、2 話す、3 読む、4 書く、の4 技能を総合的に習得したと認められない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 (E)					
教育方法等					
概要	<p>【授業目的】 中級レベルの日本語の下記記載の文法的内容を中心に学習する。CDを利用したリスニングも行い、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」の4 方面から日本語の技能を高める。</p> <p>【Course Objectives】 You will mainly the intermeditate level articles of Japanese grammar mentioned in the following. You will also have a listening training with CD and improve the four skills of Japanese language; listening, speaking, reading, and writing.</p>				
授業の進め方・方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ CDを用いて、「聞く」・「話す」訓練を行う。 ・ 講義は文法的解説を中心とする。 ・ 問題演習のプリントで、文法・読解・作文のトレーニングをする。 <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 復習を必ず行い、知識の定着をはかるとともに、日頃の生活の中でも日本語力の向上を心がけること。 				
注意点	<p>【定期試験の実施方法】 定期試験は中間・期末の2回おこなう（筆記試験）。時間は50分。持ち込みは不可とする。</p> <p>【成績の評価方法・評価基準】 上記の到達目標に基づき、各項目の理解についての到達度を評価の基準とする定期試験による（100%）。</p> <p>【履修上の注意】 辞書を持参すること。</p> <p>【教員の連絡先】 研究室 B棟3階 (B-303) 内線電話 8905 e-mail: tamuraアットマークmaizuru-ct.ac.jp (アットマークは@に変えること。)</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、補助動詞「ている」（「今、雨が降っています」）	1	
		2週	動詞辞書形の過去形（「たぶん雨がふったでしょう」）	1	
		3週	動詞文「と」と言語引用内容（「私は『はい』と言いました」）	1	
		4週	「たり」動作作用列挙（「本を読んだり音楽を聴いたりします」）	1	
		5週	動詞文「～に～を」（「父はかばんに本を入れました」）	1	
		6週	「～する前に」・「～した後で」（「寝る前に、歯を磨きます」）	1	
		7週	疑問詞 理由・原因（「昨日は休みましたね。どうしてですか」）	1	
		8週	中間試験	1	
	2ndQ	9週	「で」手段・方法、「から」起因（「機械で計算します」）	1	
		10週	動詞「て」形 手段・方法、（「機械を使って計算します」）	1	
		11週	変化「～をナ形容詞形にする」（「王さんは部屋をきれいにしました」）	1	

	12週	「で」原因・理由（「風で窓が閉まりました」）	1
	13週	文接続「～時」（「母は私が病気になった時、心配しました」）	1
	14週	「ため」・「ために」（「論文を書くために、パソコンを買いました」）	1
	15週	可能表現（「王さんは英語ができます」）	1
	16週	（15週目の後に期末試験を実施） 期末試験返却・達成度確認	1

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	実技等	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0